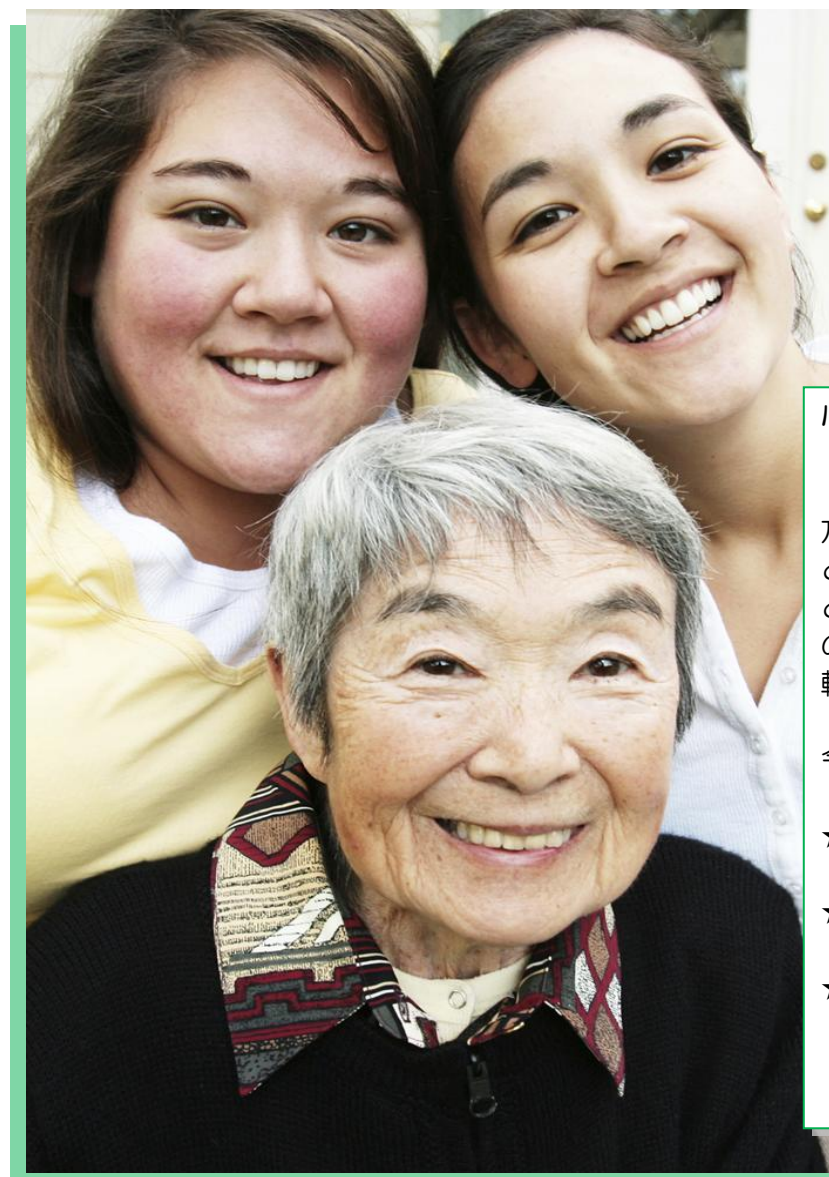


「福まちだより」

那覇市健康福祉部福祉政策課
Tel 098-862-9002
Fax 098-862-0383

バリアフリーでみんなが笑顔のまちづくり

那覇市では、全ての市民が住み慣れた地域で、安心して暮らすことができるよう、「福祉のまちづくり条例」のもと、『心のバリアフリー』に関連する取り組みを行っております。



心のバリアフリーとは

お年寄りや障がいのある方の気持ちになって、一人ひとりが考え、協力していくことです。高齢者や障がい者への理解、配慮、思いやり、気軽な声かけなどが大切です。

今号の紙面

- ★聴覚障がいについて
- ★逃げるバリアフリー
- ★福祉のまちづくり推進員



平成24年度 福祉のまちづくり推進員メンバー紹介

おやかかわおさむ	NPO 法人
親川 修	バリアフリーネットワーク会議
うらさき けいこ	NPO 法人 希望の大地
浦崎 佳子	NPO 脳文庫
きくざとみやこ	NPO 脳文庫
喜久里 美也子	NPO 脳文庫
おぐり ゆか	編集 フリーライター
小栗 由香	編集 フリーライター
とみやま あらん	株式会社 沖縄交通
豊見山 安蘭	株式会社 沖縄交通
つぼうちたかし	ホテルJALシティ那覇
坪内 隆史	ホテルJALシティ那覇
やましろ のりまさ	ヘアブティック グー
山城 範昌	ヘアブティック グー
おおしろ りか	ホテル ロコアナハ
大城 梨香	ホテル ロコアナハ
たばた はるよ	NPO法人なはまちづくりネット
田端 温代	NPO法人なはまちづくりネット
おおあさだ ひとし	那覇市協働によるまちづくり推進協議会
大浅田 均	那覇市協働によるまちづくり推進協議会
いながき さとる	沖縄大学地域研究所
稲垣 暁	沖縄大学地域研究所
いまき ともこ	沖縄シニアの会
今木 ともこ	沖縄シニアの会
こばしかわ くにや	まちづくりサポートセンター
小橋川 邦也	まちづくりサポートセンター

那覇市ホームページにて「バリアフリー情報マップ」を掲載しております。
ご高齢の方や車いすの方との外出に是非お役立てください。
<http://www.gis.city.naha.okinawa.jp/welmap/index.html>

Let's コミュニケーション

障がいを理解することでコミュニケーションがとれるようになり、何かあった場合のサポートへつながります。情報を伝えるために気をつけることなど、それぞれの障がいへのサポートポイントをシリーズでご紹介します。

シリーズ 1. 見た目では気付にくい『聴覚障がい』について



聴覚障がい者
シンボルマーク



聴覚障がい者
運転者マーク

聴覚障がいとは・・・

様々な理由（先天性・病気の後遺症・高齢・薬の影響 他）により聞こえづらまたは聞こえないという症状のことです。

聞こえなくて困ること

1. 見た目では『聞こえない』と気づいてもらえない・・・
2. 周りで何が起きているのかわからない
3. 情報が入ってこない
4. コミュニケーションがスムーズにとれない
その他ドライブスルーの利用ができないなど・・・悩みは多いのですが、運転する人もいますし、カラオケも楽しんでいます。



※ 参考資料 ゆうことカリンの『バリアフリーコミュニケーション』

筆談でコミュニケーションをとってみよう

☆筆談する時のポイント☆

1. 大切なのは本人の意思
筆談が必要かどうかご本人に確認しましょう。
(手のひらに字を書くジェスチャーを試してみる)
 2. 表情からも気持ちが伝わる！
ご本人の顔を見て表情からも意思を読み取るように心がけてください。「あなたの顔も見られています。」
 3. 失敗しない筆談術
日時・時間・名前・固有名詞などは**確実に**記入して伝えること！
 4. お互いにイライラしない筆談法
内容は簡潔に。『？』などのマークを使いながら、できるだけ文章を短く記入すること。
- 簡単な手話ができると嬉しいそうです。「こんにちは」「ありがとう」「わかった」「わからない」など。

表情やしぐさからも情報が伝わります。ジェスチャーも交えて筆談はなし！



福まち推進員からの提案

逃げるバリアフリー① 入門編

災害時の避難についての意識が高まっています。『みんなが安全に避難する』ということを真剣に考えてみましょう。周りにお年寄りや障がいのある方はいませんか？目が不自由な方や聞こえに不安のある方にも、情報が伝わらず逃げ遅れたということがないよう、普段から、情報の伝え方や、『何に困るのか』を知っておきましょう。いざという時のご近所力。あなたの助けを必要としている方がいます。

聴覚障がい者の方は・・・



自分で行動できる方がほとんどです。しかし、情報がなければ避難は出来ません。何が起きたのか、どこに避難するのか、安全な場所はどこかなど、テレビや音声放送は聞こえないので、筆談などで情報提供をお願いします。お願いカードを提示されたらお手伝いをしてください。

視覚障がい者の方は・・・



『何が起きているのか』目で確認することが出来ないため、言葉で伝えてください。歩く方が多いのですが、安全な避難場所がどこか具体的に説明しながらの誘導が必要です。誘導する際は周りの状況を伝えるなど、声をかけながら歩くと、視覚障がいの方も安心します。盲導犬は訓練を受けていますので、触ったり食べ物をあげたりせず、怖がらず見守ってください。

車椅子利用の方は・・・



車いすやバギーでの移動は、段差など何かと不便が生じます。自力で移動できる方、介助者が必要な方などそれぞれですが、車いすの方が安全に通れる85cm以上の通路の確保や、避難経路が階段しかない場合、複数の人で担ぐことも必要になります。日ごろから車イス利用者についての知識、対応の仕方を身につけ、所属する施設の設備や避難方針を確認し、シミュレーションしましょう。

高齢者の方は・・・



耳が遠く見えづらい、足元がおぼつかないなど症状は様々で、行動機能の衰えから、いざという時にも逃げ遅れる可能性があります。避難をする為には、支援者の助けが必要となります。早めに情報提供を行い、避難できるようサポート体制を整えておきましょう。

- 日頃から歩道や道路、通路など使用環境を整えて、安全を意識しましょう。
- 普段からのコミュニケーション『ご近所づきあい』を大切に！
- 『那覇市防災・気象メール』の登録をお勧めいたします。(携帯用)
<http://dim2web09.wni.co.jp/nahacity/bosaimail/index.html>
- 介助セミナー等で、車いすの操作や持ち上げ方などを知っておくことも有効です。